

# 北部太平洋大中型まき網地域漁業復興プロジェクト(大津地区③) 茨城県北茨城市

事業実施者 : 大津漁業協同組合  
支援期間 : 平成27年10月1日～平成30年9月30日

使用船舶名 : 第六福栄丸(網船199トン) 第二十三福栄丸(運搬船330トン)  
(大中型まき網漁業)

## (取組の内容)

- 船団の合理化 : 網船の大型化と探索船の削減により、1船団3隻体制を2隻体制に縮減する。  
: 船団のスリム化により、生産コストを削減する。
- 資源管理の推進 : 探索船の削減により漁獲量の10%削減を見込む。  
11,400<sup>トン</sup>/年(震災前5年平均)→10,260<sup>トン</sup>/年
- 省コスト化 : 探索船の削減により乗組員を5名削減する。(42名→37名)  
年間燃油消費量を70k<sup>ℓ</sup>削減する。  
修繕費(2隻体制)を39百万円/年削減する。  
氷使用量を10%削減する。(5,534<sup>トン</sup>/年→4,981<sup>トン</sup>/年)
- 網船の安全性向上等 : 改革型網船の導入により十分な復原性、居住環境、作業スペースを確保する。
- 復旧復興への対応 : 大津漁港の復旧に参画するとともに、需要に応じた水揚を行い、従来の餌料用冷凍品から食用向け加工品原料への脱皮を図る。  
(大津漁港への計画水揚数量650<sup>トン</sup>/年)  
運搬船を共同して利用する。



第六福栄丸 網船 外観



第六福栄丸 網船 リビング

## (事業の成果)

- 網船の操業性能の向上及び高性能作業艇の活用により、支障なく操業することが可能となり、船団縮減を実現した。
- 水揚数量(3年平均14,810<sup>トン</sup>)は、復興計画の目標値(10,260<sup>トン</sup>)を44.3%上回り、水揚金額(3年平均1,013百万円)は31.7%上回った。  
償却前利益は144百万円(3年平均)で、次期代船建造の目的が確保される結果を得ることができた。
- 燃油使用量は計画値(1,131k<sup>ℓ</sup>/年)に対し3年平均で1,146k<sup>ℓ</sup>/年と計画値とほぼ同等の値であった。  
氷の3年平均使用量6,095<sup>トン</sup>は計画値4,981<sup>トン</sup>を上回ったが、水揚量1<sup>トン</sup>当たりの氷使用量412kg(3年平均)は計画値を下回った。
- 網船の復原力の向上と居住環境の大幅な改善が図られた。
- 水揚岸壁及び後背地の復旧の遅れ並びに漁獲物の受入体制の未整備により、大津漁港への水揚量529<sup>トン</sup>(3年平均)は計画値650<sup>トン</sup>を下回った。